

教科	国語	新科目の研究と観点別評価基準の考察を行う。	教科部会で「現代の国語」「言語文化」を研究、また、すでに実践しているアクティブラーニングと新しい学力観との結び付けに関して意見交換を行った。	4	4.0	令和6年度の完成年度に向け、確実に検証を重ねていきたい。	4	4	4	4	4	4	5	4.1	
		進学講座の在り方を見直し実践する。	生徒の進路希望に合わせた進学講座の在り方改革に初めて取り組み、成果を見ることができた。	4		検証と改善を行い、より効果的な講座の在り方を追求していきたい。	4	4	4	4	4	4	4		
	地公	新科目の研究と観点別評価基準の考察を行う。	教科部会で「歴史総合」「公共」を研究、また、パワーポイントによる授業をいくつか作成・テストし、評価方法の意見交換を行った。	4	4.0	全く新しい科目に対して、当事者だけでなく教科全員で情報を共有していきたい。	4	4	4	4	4	4	4	5	4.1
		分野のアンバランスを解決するための工夫を図る。	他分野の教材研究にも積極的に取り組んだ。	4		地理、公民の補填を工夫していきたい。	4	4	4	4	4	4	4		
	数学	家庭学習の習慣付けのための工夫をする。	課題の配信と添削をひとりひとり丁寧に実践した。	4	4.0	継続した指導、さらには個別の対応も考えたい。	4	4	4	4	4	4	4	4	4.1
		効果的かつ効率的な学習形態を常に模索する。	パワーポイントやTeamsの特性を活かした授業スタイルを実践し確立した。	4		他校の実践例、成功例をもっと研究したい。	4	4	4	4	4	4	4	5	
	理科	新教育課程の編成と観点別評価基準の考察を行う。	新教育課程で減単される科目のシラバスを見直し、内容と時間の組み直しを図った。	4	4.0	時短、資料の活用を見直したい。	4	4	4	4	4	4	4	5	4.1
		理系離れをできる限りなくすため、基礎学力定着の工夫を行う。	書き込み式のノートやプリントを年間を通して活用し、理科に対する苦手意識を取り除いた。	4		物理、化学、生物、地学と範囲が広く難しいものの、生徒の興味関心に触れる手法を追求していきたい。	4	4	4	4	4	4	4	4	
	保体	主体的に取り組む姿勢を育てる体育を意識する。	様々な種目でわかりやすい見本と説明を示し、何事にもチャレンジしようとする機会を作った。	4	4.0	コロナ禍であっても生涯スポーツの観点で運動の楽しさを伝える工夫を続けていきたい。	4	4	4	4	4	4	4	4	4.0
		健康で社会的な態度を育てるため、体育祭に代わる体育行事を計画する。	学年毎に体育行事を計画し、事前準備からしっかりと組ませた。	4		全校での体育会実行に向け、生徒主体に準備を進めたい。	4	4	4	4	4	4	4	4	
	美術	考えながら表現力を発揮する機会を提供する。	生徒の生き生きとした作業を後押する机間巡回と声掛けを最大限行った。	4	4.0	生徒の個性を伸ばす機会を増やしたい。	4	4	4	4	4	4	4	4	4.0
		教室でスムーズに展開できるプログラムを改善する。	実学ならではの授業数減の中でもできることを工夫した。	4		生徒の理解と協力を求めて生きたい。	4	4	4	4	4	4	4	4	
	英語	新科目の研究と観点別評価基準の考察を行う。	教科部会で「英語コミュニケーションⅠ」を研究、また、副教材やオリジナルプリントのチェック・精選を行った。	4	4.0	今までのノウハウの見直しを加えていきたい。	4	4	4	4	4	4	4	5	4.1
		英語4技能の実力の向上を目指す。	英検やTOEICなどの外部外部検定受験生に対する個別指導を行った。	4		休み時間の活用を最大限工夫したい。	4	4	4	4	4	4	4	5	
	家庭	新1年に対する家庭科教育を見直す。	新教育課程では1年の履修となるが、心の成長に合わせた掘り下げ方・話題の提供など内容を見直した。	4	4.0	常に社会の状況に注目していきたい。	4	4	4	4	4	4	4	4	4.1
		安全・安心に向けた調理実習に改善する。	まだまだコロナ禍が続く中でもできることを研究し、いくつかのレシピを完成させた。	4		年に5回の実習を計画したい。	4	4	4	4	4	4	5	4	
情報	探究入門におけるICTスキル獲得に向けた取り組みを検証する。	生徒の個人差への対応について検討した。	4	4.0	個別対応も必要に応じて検討したい。	4	4	4	4	4	4	4	4	4.1	
	令和5年度に復活する情報Ⅰにおけるプログラム教育の研究をする。(令和4年度も継続)	副教材の選定、タブレットの全員所持、共通テストへの対策など検討を始めている。また、PCラボ教室をスクール形式に再整備した。	4		入試情報の収集と分析を進め、より効果的な授業方法を探していきたい。	4	4	4	4	4	4	4	5		
創意実践科	完成年度であり、3年間の取り組みを検証する。	コロナ禍の中、グループ活動・研究のため思うように進めることができなかったが、工夫により全学年で実施することができた。	4	4.0	年間計画や評価法、ワークシート教材がまだまだ必要であり、来年度は教材開発を推進し、全校・全教科で課題研究を支援する体制を確立したい。	4	4	4	4	4	4	4	5	4.1	
	スムーズな発表会を計画する。	時間配分など見直すべき課題は残ったものの、生徒は最後の授業で凝刺とプレゼンすることができた。	4		外部会場を利用し、広く公開したい。	4	4	4	4	4	4	4	5		
指導部	進学実績・生徒の登下校の様子など日頃の教育活動をしっかりと見える形で示すことができるように取り組む	生徒が主体的に進学講座に取り組むことができるよう、選択の幅を増やしている。 法人内各校へ意欲の高い生徒を送り出している。	4	4.0	新課程への移行に合わせた進学講座の在り方を構築すること。 難化傾向にある静岡理科大学への進学に対応できる学力を育てていくこと。	4	4	4	4	4	4	4	5	4.1	
進学指導課	1 国公立大学・難関私立大学合格者数の増加 2 新入試の分析・検証と対応の検討・実践 3 静岡理科大学との連携の強化	コロナ禍でも、オンライン指導や個別指導を行い、国公立大学合格者数のうち、一般前後期試験での合格者が増加している。 課題研究等の取り組みを、受験種類ごと指導に活かしている。	4	4.0	2回実施された共通テストの傾向を読み取り、受験指導に活かすこと。 SSコースでの取り組みを発展的に活かす工夫をすること。	4	4	4	5	4	4	4	5	4.2	
進路指導課	1進路に主体的・意欲的に向かう生徒を育てる ① 基本的な生活習慣の確立 ② 基本的学力の充実 ③ 社会的ルール理解 2 キャリアパートナーシップの見直し	ICTも活用し地元起業家との交流事業を通してキャリア指導に繋げている。 公開求人に加えて、より手強い繋がりのある企業との連携を活かしている。	4	4.0	景況感の変動による就職希望者の増加に対応すること。 地元商工会議所との連携をさらに強めていくこと。	4	4	4	4	4	4	4	5	4.1	
生徒指導課	1 本校生徒としての自覚責任誇りを持たせる 2 学習環境を整える 3 交通指導の徹底を図る 4 地域貢献に努める 5 職員全体で連携した生徒指導を行う	HR時に指導チェックシートを用いることで指導の統一性を図っている。 猛暑に合わせて柔軟な制服の着用規定を設けている。	3	3.0	生徒心得の文言を見直すとともに説明の必要なものには適切な表現を盛り込むこと。 Z世代の気質を活かした自己教育力を育てること。	4	3	4	4	4	4	4	5	4.0	

保健体育課	1 体育行事を通して生徒の責任感を養う 2 運動部の活動の活性化を図る 3 生徒が健康の保持に努めるよう指導する	新方式の体育行事を通して共感性を育てている。	4	4.0	生徒が主体的に関わることでできる体育的行事を工夫すること。	4	4	4	4	4	5	4	4.1
		部活動では感染状況の変化をつかみながら安全に大会参加ができるよう取り組んでいる。			teamsなどアプリを利用した部活指導に更に工夫を加えること。								
研究開発部	サイエンス・イノベーションによって地域の未来を創る人材を育成する。	全校、全学科で課題研究指導を支援した。	4	4.0	課題研究の評価法、教材を改善する。全校・全教科で課題研究を支援する体制を確立する。	4	4	4	4	4	4	5	4.1
		課題研究を1～3年生全員で実施した。			科学英語の実施方法を改善、SKYSEF等、国際連携教育を継続する。								
		科学英語を1～3年生全員で実施、SKYSEF等、オンラインを活用して国際連携教育を実施した。			地域との連携教育を継続する。								
創意実践課 (SSH・課題研究)	課題研究プログラム普及版の開発の推進	第3期SSH指定3年目として、全校、全教科での運営体制の改善を行った。	4	4.0	全校、全教科での運営体制の改善を継続する。	4	4	4	4	4	4	5	4.1
		課題研究を用いた人材育成プログラムを試行・改善した。			課題研究を用いた人材育成を継続する。								
国際連携教育推進課	海外語学研修、海外姉妹校受入れのプログラムの改善を行い、恒久的な国際交流プログラムを構築する。	訪問や招聘ができない状況下でも本校で恒常的な国際交流が実践できる方法を検討した。	4	4.0	姉妹校や教育連携校とのオンライン交流事例を増加させる。	4	4	4	4	4	4	5	4.1
		語学研修の改善を検討した。			留学、語学研修の改善を行う。								
中学校	次世代型教育プログラムを構築する。 知識・技能・論理的思考力・言語能力の基礎を育む。	休校時も質の高いオンライン授業を行うことができた。	4	4.0	教育プログラム全体の見直し。	4	4	4	4	4	4	5	4.1
		グループ討議や自己評価シートなどをオンライン授業にも取り入れることができた。			ICT教育をさらに充実させ、国際交流等にも利用する。アジャイル型PBLの授業を実施する。								
中学1年部	新型コロナウイルスの感染拡大により様々な規制・制限がある中においても、「仲間」「集団」を意識した学校生活を送る。	学年目標「絆～認め合い、励まし合う仲間」を学年集会やホームルーム等で呼び掛け、「仲間」や「集団」を意識して生活することを実践した。 各教科の課題や提出物、「フォーサイト」「自学ノート」等の毎日取り組むべきものについて、クラスや学年全体で話し合い呼び掛け合う機会を設け、意識付けの強化を図った。	4	4.0	新型コロナウイルス感染拡大における対策を考え意識しながら、本校の教育指針に沿った授業・諸活動を展開した。また、「仲間」「集団」を意識させる手段の一環として、時にオンライン機器等を活用しながら、生徒同士で話し合い呼び掛け合う機会を多く設けたことで、生徒個々が考え行動に移す力が目に見えて伴ってきたことを実感した。次年度に向けて、こうした力を更に伸ばす具体的な方策を熟慮し、リーダーの育成にもつなげていく。	4	4	4	4	4	4	5	4.1
中学2年部	昨年度の生活を通して見つけた自身の【心】の中にある「可能性の種」を芽吹かせるための方法を主体的に考え、叶えたい未来を強く意識し、計画的に課題をクリアしていけるような見通しを持った【眼】を育てる。	これから訪れる「壁(行事等)」を意識させ、その時の在りたい自分を想像させながら、そこに至る過程での目標を自ら設定し、行動できる姿勢を身につけさせた。 学習力を向上させるため、自身に合った学習スタイルを見つけるとともに、学習時間を定着させる取り組みを実施した。また、作文指導・朝読書・朝学習を通して、「学習を支える力」を育んだ。	4	4.0	本年度は、生活の質の向上を目指し、自分自身の理想に近づくための「課題設定」と「行動」を心がけさせ、生活リズムと学習習慣の(中学生レベルでの)再構築を行い、自尊感情を高めながら、前向きに物事を進める力を身につけることができた。また、「先輩」としての意識を高めさせながら責任感と公德感を育むことができた。来年度は、多角的な視点を得るための機会を創り、義務教育修了を意識させながら、「自立」を目指すための礎となる力(人間力と広義での学力)の育成を目指す。	4	4	4	4	4	4	5	4.1
中学3年部	生活・学習指導を通して心を育む。	学年通信の作文指導をとおして、人・物・心を大切にできる生徒の育成に努めた。 自主学習の習慣化指導をとおして、自ら学ぶ姿勢の育成を行った。	4	4.0	(1) 最上級学年として、生活指導のレベルを上げ、 ①挨拶 ②聞く姿勢 ③授業開始前の着席 ④提出期日を守る生活など、下級生の手本となる態度を身につけさせた。 (2) 進路指導 自分の進路を考える中で、高校進学に向けて必要な学力定着を個々に応じて最大限努力させた。	4	4	4	4	4	4	5	4.1
高校1年部	人生の土台作り 基本的生活習慣の確立(学習時間の定着、遅刻しない、身だしなみを整える)	定期試験に向け、学習計画を立て、実行させた。また積極的に課外活動に参加させ、社会性を育んだ。 学年で服装特別指導を行い、ルールを守ることの意識を持たせた。	4	4.0	成績が伸び悩む生徒が目標を持つために、好奇心を大切に、自ら取り組もうとする姿勢を育み、クラス全体で進路意識の向上を図る。また更に課外活動へ積極的に参加して、教室の外からも刺激を受けて学ぶことで、具体的な将来像を形成できるようにしたい。	4	4	4	4	4	4	5	4.1
高校2年部	主体的に学習活動・部活動・生徒会活動に取り組む。	オンラインのメリットを生かした、教科指導や進路指導の在り方を構築できた。	4	4.0	コロナ禍による学力の定着に関する不安を解消すべく、学年と教科担当とで連携し具体的な目標を定めた。	4	4	4	4	4	4	5	4.1
	学校行事において中心的な役割を果たす。	遠足、修学旅行、体育祭を通し生徒が主体的に活動する環境を作り出し、達成感や成功体験を収められるよう支援した。			学校行事を通し、協調性や社会性を高められる環境(クラス・学年)を作り、指導していきたい。								
高校3年部	自ら考え、行動する力と社会人としてのマナーを身につける。 進路実現に向けて、主体的に取り組む	美しい所作や相手にはっきりと伝わる話し方を意識し、就職試験や入学試験での面接でその力を活かせるように指導した。 自分の希望する進路先に関する情報を収集、比較検討し、進路実現に向けて自主的に行動させた。	4	4.0	コロナ禍での進路決定となったが、最後まで粘り強く、そして諦めることなく進路を決定した。	4	4	4	4	4	4	5	4.1
			平均	3.8									4.1

学校関係者評価委員のコメント

○昨年度もリモート授業が続きましたが、昨年度よりも生徒がスムーズに行え、家庭で学習する習慣がつかしました。

○新しい教育プログラムが続々と増え、「学ぶ」ことへの意欲向上が子供達の話を通じて感じられます。

○進路指導においては、先生方が本当に一生懸命取り組んでいただき、感謝の言葉しかありません。コロナ禍において、生徒本人や保護者が早くから取組むための動機付けがあると更に良いのではと思います。

○コロナ関連の対応を中心に、保護者に出来るだけ情報をオープンにさせていただき、大変良かったと思います。一方で保護者が学校行事に参加できる機会が減ってしまったのが残念です。

○今後もコロナ禍でどのように通学できるか不安ですが、生徒が毎日安心して楽しく学べる学校、更に進化する「新北高」創りに期待します。

○生徒募集において、「静岡北高の良い評判を聞く」と言う受験生の親は多いですが、何が良いのか漠然としている気がします。具体的な事例を広報することが効果があるのではと感じます。

○既に多くのことに取り組んでいただいているので、やり過ぎてご負担にならないように、と思います。本当に常々有難うございます。

○SNS等を通じて、親が学校活動を知る機会を増やせば、口コミで北高のPRに繋がると思います。子供は中々学校のことを話してはくれません。親を通じて北高の取組み、他校では体験できないことをもっと外部に広めていけたらと良いのでは、と思います。

○帰宅した時の子供の目を見るのが好きです。毎日の発見や学びを通し、将来やりたいことを見つけ、目標に向かって頑張れる環境を提供し続けてくれる先生方には感謝の気持ちしかありません。

○コロナ禍の厳しい区養育環境の中、積極的に教育活動に取り組み、十分に教育目標を達成していると思われます。授業においては、対面式とオンライン授業を効果的に取り入れ、生徒の自ら学ぶ意欲を大切に育てています。また、高校については本年度から始まる新教育課程に対応した指導方法、評価方法を検討・工夫しています。進路実績も国公立大学に40名が合格するなど、生徒の進路目標の実現に向けて、先生方が熱心できめ細かな指導を行っている成果が表れています。その他、SSH活動や部活動などでも多くの生徒が活躍し、着実に実績を上げています。唯一指摘させていただくことは、高校の生徒募集が定員に達しなかったことです。子どもの数の減少が進む中、大変だと思いますが、一人一人の先生方が危機感を持っていただきたいと思います。

○教職員への負担軽減（部活動等）を図り、授業の準備等に集中できる環境作りを検討してほしいと思います。

○交通ルールを守って登下校しているので安心して見ていられます。

○コロナ禍で計画通り進まない中での様々な対応ご苦労様でした。

○コロナ禍での学校のきめ細やかで徹底した取り組みのおかげで感染拡大にいたっていないことに感謝いたします。

○コロナ禍で休校中のオンライン授業において、子供たちの集中力や身体的な負担を考慮し、様々な工夫を取り入れて負担軽減に努めてくださりありがとうございます。

○進路指導において、一人一人の希望や学力に応じて、最後の最後までしっかりと個別指導していただき感謝の気持ちでいっぱいです。

○親が学校活動や取組みを知る機会が増えれば、それが口コミで北高のPRに直結するはずです。コロナ禍でも何かそういったチャンスがあれば一番いいと思います。

○現状に満足することなく、子供たちのために学びやすく活動しやすい環境づくりに全力を注いでくださる先生方に感謝しかありません。